

第3回 安平町町民まちづくり会議 議案

安平町への移住をおねがいする顔



令和5年度卒業の早来学園9年生が授業で作成した町非公式キャラクター「あびたまなっちー」

子ども達にも安平町に親しみを持ってほしいと願いから創られた。

日時 令和8年5月28日（木）・29日（金）

場所 安平町役場 総合庁舎（2F 中会議室1）

議事（１）第２回会議の振り返り

これまで実施してきた各種アンケート等の結果を踏まえ、前回参加者のみなさんからいただいたご意見をまとめました。

【昼の部】

・教育・子育て分野の躍進：

子育て支援や就学前教育への満足度は前回調査より大きく向上した。特に追分高校については、道内の地方校が苦戦する中で高い入試倍率を維持しており、「不登校経験者などがリスタートを切れる学校」という独自の立ち位置が確立されつつある。

・生活インフラと医療の危機感：

医療、公共交通、生活インフラは「重要度は高いが満足度が低い」領域に集中している。特にJR石勝線・室南線の維持問題は、学生の通学や住民の足に直結する深刻な課題であり、自治体間の連携や国への働きかけが不可欠である。

総合病院や産科・小児科の欠如は、高齢層のみならず現役世代の強い不安要素である。都会への集約化が進む中で、近隣自治体との連携により「恵まれた」物理的距離を活かした戦略的な仕掛けが求められる。

・隠れた強みとしての「水道」：

安平町の水道は、良質な水源により近隣他自治体と比較して低料金のケースもあり、かつ高品質な提供が維持されている。この事実は、町民に十分認知されていないが、命に関わるインフラとして安易な民営化を避け、町の手で守り抜くべき重要な資産である。

・商業・観光の満足度向上（経済・商業分野の躍進）：

商業の満足度が劇的に上がった要因として、参加者から「道の駅」の存在が挙げられた。道の駅で名産品を知り、実際に購入する流れが認知度アップに直結しているという実感が共有された。また、新たなドラッグストアの進出、新規創業支援制度の充実により、満足度が向上したのではないかと問う意見も出された。

・追分高校の変化：

参加者から「昔の追分高校は荒れているイメージがあった」という率直な声が出たが、現在は千歳や恵庭などで不登校を経験した生徒たちが「コミュニティを変えてやり直すリスタートの場所」として選ばれる学校になっている実態が共有された。参加者からは、無くしたくない誇るべき強みとして認識すべきだという意見が出された。

・JR維持問題のジレンマ：

室蘭線の本数不足（10時?14時の空白）について指摘があった。JR側が求める費用負担（上下分離方式など）については、「そもそも国営に戻すべき」「自治体だけでは支えきれない」といった、国の責任を問う声も出された。

議事（１）第２回会議の振り返り

・挑戦文化としての地域おこし協力隊：

20名を超える協力隊員の受け入れと、卒業生の約5割が定住・起業（うどん店、ビール醸造等）している事実は、町の挑戦文化の象徴である。

協力隊を積極的に受け入れる姿勢は強みであるとの意見に対し、事務局からは「何をやっているか分からない」という声があるという実情が明かされたが、「何もしない（協力隊を入れない）のは現状維持でノーリスクに見えるが、長い目で見ればリスク。町としてリスクを取って変革を後押ししている姿勢こそが評価されるべきだ」との意見があった。

・地震を経て変わった「強み」：

第2次計画で掲げられていた「災害の少なさ」について、参加者から「2018年の胆振東部地震を経験した今、これはもう強みとは言えない」という指摘があった。今後は「災害がない」と想定するのではなく、気候変動や地震を前提とした安心・安全の構築が町の特色になるべきだという方向性が示された。

・教育のシンボル化：

早来学園の開校などは、10年前にはなかった圧倒的な強みである。

・弱点の克服：

「郊外のインターネット環境の遅れ」については、既に克服されたことが指摘された。

・「コミュニティ」分野の評価の難しさ：

スポーツに限って言えば、部活等で全国的に活躍してる人もいるが、現在は町全体として見えづらいのかもしれないという点に加え、そもそもこの分野の「つかみにくさ」という、認識のしづらさが指摘された。

・今後の安平町が目指すべき方向性：

町民アンケートによる将来期待する方向性について、「ほどよい田舎」というのは良い言い回しに感じる点や、主体が行政のものはパーセントが高く、主体が町民のものはパーセントが低い、引っ張ってほしい人が多い・リーダーシップという参加者からの分析が示された。

・アンケート回答率から見える住民の受けとめ方：

回答率が低い＝サイレントマジョリティからどう意見を聞いていくかが重要であるとの指摘があった一方で、町に対する不満がないという見方が参加者から示された。

議事（１）第２回会議の振り返り

【夜の部】

・揺るぎない立地と気候の優位性：

札幌、千歳、苫小牧という主要都市に隣接し、かつ、新千歳空港への圧倒的な近さは、他地域にはない最強の武器である。また、札幌と比較して雪が少なく、生活の負担が軽い点も、実際に住んでみて再認識した大きな強みである。

・教育・子育て環境のブランド化：

教育を軸としたまちづくりは着実に成果を上げているという実感がある。特に「馬がいる子ども園」など、自然と共生するユニークな教育環境は町外からも羨望の的となっている。これは単なる宣伝文句ではなく、子どもたちが「ワクワクして通える」実態を伴った強みである。

今後は幼小中の連携深化が期待される。

・「弱み」からの転換（通信環境と追分高校）：

かつて弱みとされていたWi-Fi環境の未整備は、この10年でほぼ解消され、現在はテレワークも可能なインフラへと進化した。また、存続が危ぶまれていた追分高校も、不登校経験者などのリスタートを支える「魅力ある学校」へとその質を変えつつある。

・挑戦を後押しする文化：

SNS等で情報発信する移住者等の増加により、町内の新しいカフェや飲食店への来店が促され、「新しいことに挑戦できる空気感」が町の新たな活力となっている。

・「健康・福祉」の現状維持：

町内に総合病院や入院施設がない不安は根強いが、千歳や苫小牧といった「二次医療圏」の病院へ迅速にアクセスできる立地が、その不安を一定程度下支えしている。

・公共交通（JR室蘭線）への強い不安と危機感：

デマンドバス等町独自の施策は一定効果があると考えられるものの、室蘭線が無くなれば、高校等の進学先に多大な影響を及ぼし、結果として町外へ流出を招くという懸念が示された。

JR側が求める費用負担に対し、自治体で支えるのは規模的に困難であるとの認識が示された。また、公共交通の維持は町だけの問題でなく、国のインフラのあり方として捉えなおす必要性があると指摘された。

・コミュニティ分野のあり方：

交流という観点で、役場が関与するというよりかは、合唱やフィットネスなどたくさ

議事（１）第２回会議の振り返り

ん活動があることから、自ら主体的に取り組むべきだという考え方が示された。また、移住者どおしの集まりもあるのでコミュニティは充実しているとの認識もあった。

NPO団体が増えたが、小学校はPTA解体、自治会はあるがこども会はないといった、現在と10年前とはことなる現状を踏まえた活動の在り方の模索が示唆された。

・国道234号線への懸念：

町内を縦断する唯一の幹線道路でありながら、大型車両の通行が激しく、冬季間の対策も不十分であるとの意見があり、国に対して幅員の拡幅や休憩スポットの設置など、安全性の向上をより強くしていくべきとの提案があった。

↓基本構想P29より抜粋 ※この表も見ながらお話ししました。

町民参画などを通じて抽出された「まちの強み」			
立地 地勢	◎新千歳空港・国際拠点港湾苫小牧港など交通拠点に至近 ◎鉄道網や高速道路インターチェンジが立地	健康 福祉	◎地域福祉を支える住民ネットワークが確立 ◎過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在
生活環境 生活基盤	◎希少生物が生息する自然豊かな生活環境 ◎恵まれた立地と自然環境が調和した暮らしやすさ ◎気象条件に恵まれ大災害が少ない環境 ◎丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景 ◎石狩・空知に近接しているが降雪量は少ない ◎日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在	子育て 教育	◎登下校時の見守りボランティア活動など、地域で子どもを育てる意識の強さ ◎待機児童ゼロ（2016年） ◎公私連携幼保連携型認定こども園の整備 ◎「子育てしやすい街ランキング（2015年）」全道2位 ◎18歳までの子ども医療費の無料化を実現 ◎少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著 ◎積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動 ◎全ての認定こども園・小中学校にコミュニティ・スクールを設置 ◎幼保小中高の連携体制が確立
経済 産業	◎雇用を生む、規模の大きな企業が町内に立地 ◎昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性 ◎名馬が集まる日本有数の軽種馬産業 ◎多種多様な農業が展開（少量多品種） ◎有機農業と慣行農法の共存に寛容な農業文化 ◎ブランド品の存在（アサヒメロン、和牛など） ◎約75haの作付面積を誇る丘陵に咲く菜の花畑 ◎多数のCM撮影が行われる景観を保有 ◎プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在	人づくり ・ コミュニティ (生涯学習)	◎まちづくり基本条例・まちづくりファンド（町民基金）の設置 ◎地域コミュニティ活動が健在で防災や高齢者対策など自助・共助・公助の役割分担が機能 ◎屋内アイスアリーナ・鉄道資料館など近隣には無い希少スポーツ施設・文化施設の存在
		行財政 運営	◎自治会長等会議の制度化により行政と住民の距離が近く住民意見の政策反映スピードが速い

議事（１）第２回会議の振り返り

S まちの強み (Strength)	分野	W まちの弱み (Weakness)
◎1 新千歳空港・国際拠点港湾苫小牧港など交通拠点に至近 ◎2 鉄道網や高速道路インターチェンジが立地	立地 地勢	▽1 近接市町に比べ深刻な人口減少と少子高齢化
◎3 希少生物が生息する自然豊かな生活環境 ◎4 恵まれた立地と自然環境が調和した暮らしやすい ◎5 気象条件に恵まれ大災害が少ない環境 ◎6 丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景 ◎7 石狩・空知に近接しているが降雪量は少ない ◎8 日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在	生活環境 生活基盤	▽2 Wi-Fiの未整備と郊外のインターネット環境の遅れ ▽3 特に追分地区で顕著な空き家・空き地の増加 ▽4 道路の環境管理が特に行き届いていない ▽5 町内施設や看板に統一感がなく寂れた感覚
◎9 雇用を生む、規模の大きな企業が町内に立地 ◎10 昼間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性 ◎11 名馬が集まる日本有数の軽種馬産業 ◎12 多種多様な農業が展開（少量多品種） ◎13 有機農業と慣行農法の共存に寛容な農業文化 ◎14 ブランド品の存在（アサヒメロン、和牛など） ◎15 約75haの作付面積を誇る丘陵に咲く菜の花畑 ◎16 多数のCM撮影が行われる景観を保有 ◎17 プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在	経済 産業	▽6 自己水源の恒常的不足 ▽7 商業への住民満足度の低さ ▽8 高齢の商店事業主の25%が事業継承を望んでいない現状 ▽9 新たな工業用地の敷地確保が困難 ▽10 町内農産品・特産品の対外ブランド力の弱さ ▽11 農家戸数の減少と高齢化による継承者の不足 ▽12 宿泊施設の不足 ▽13 圧倒的な集客力を持つ施設がない ▽14 民間の観光事業者が未参入 ▽15 体験型の観光コンテンツの不足 ▽16 行政施策の情報提供・PRの不足 ▽17 「安平町」という自治体名の知名度の低さ ▽18 観光資源間や近隣市町村との連携がない
◎18 地域福祉を支える住民ネットワークが確立 ◎19 過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在	健康 福祉	▽19 総合病院・福祉専門施設がない ▽20 地域公共交通に対する住民満足度の低さ ▽21 70歳以上の高齢者単身世帯数の割合の高さ（全世帯の約12%） ▽22 社会福祉協議会のボランティア活動者の高齢化 ▽23 地域福祉への理解者の減少
◎20 登下校時の見守りボランティア活動など、地域で子どもを育てる意識の強さ ◎21 待機児童ゼロ（2016年） ◎22 公私連携幼保連携型認定こども園の整備 ◎23 「子育てしやすい街ランキング（2015年）」全道2位 ◎24 18歳までの子ども医療費の無料化を実現 ◎25 少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著 ◎26 積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動 ◎27 全ての認定こども園・小中学校にコミュニティ・スクールを設置 ◎28 幼保小中高の連携体制が確立	子育て 教育	▽24 合計特殊出生率の低さ（道内127位） ▽25 子どもを対象とした全天候型施設がない ▽26 宅地・団地内公園の児童遊具の魅力の低さ ▽27 児童・生徒数の減少による少年団・部活動・子ども会等の活動停滞・統合問題 ▽28 PTA・子ども会育成会の担い手不足（男性参加率低下に伴う女性の負担増） ▽29 少年団活動・部活動で利用できる子どものための交通機関がない ▽30 全ての小学校が1学級・複式学級であり、競い合い精神の醸成が困難 ▽31 追分高等学校の存続危機 ▽32 6校中5校の学校施設が老朽化
◎29 まちづくり基本条例・まちづくりファンド（町民基金）の設置 ◎30 地域コミュニティ活動が健在で防災や高齢者対策など自助・共助・公助の役割分担が機能 ◎31 屋内アイスアリーナ・鉄道資料館など近隣には無い希少スポーツ施設・文化施設の存在	人づくり コミュニティ (生涯学習)	▽33 新しい取組みに消極的な風土 ▽34 自治会・町内会等役員の担い手不足 ▽35 自治会・町内会等への加入率の急激な低下（H18：89%⇒H28：82%） ▽36 地域活動への若者参加者数の減少 ▽37 合併後10年で未だに存在する旧町の意識 ▽38 多目的に利用できる体育施設がない
◎32 自治会長等会議の制度化により行政と住民の距離が近く住民意見の政策反映スピードが速い	行財政 運営	▽39 約40%を占める築30年以上の公共施設に係る老朽化対策費用の増大 ▽40 合併特例の終了に伴う地方交付税の減少への対応

議事（２）SWOT分析一覧表について

1. 安平町の『強み』と『弱み』

議事（１）でまとめたものを、既存の表へ落とし込んでみました。

町民に対するアンケート調査をベースにお話ししたので、安平町固有の内容を『S』と『W』に入れています。

今回も、次の点について皆様のご意見をお伺いしたいと考えます。

- ① 前回からの項目は、今もそのとおりか？
- ② ここにないもので、入れるべきものがあるか？

【凡例】 黒字：前回からのもの 赤字：前回会議意見

S まちの強み (Strength)	分野	W まちの弱み (Weakness)
◎1 新千歳空港・国際拠点港湾苫小牧港など交通拠点に至近 ◎ 札幌・千歳・苫小牧への近さ ◎2 鉄道網や高速道路インターチェンジが立地 ◎ ほどよい田舎暮らし ◎ 雪の少なさ	立地 地勢	▽1 近接市町に比べ深刻な人口減少と少子高齢化
◎3 希少生物が生息する自然豊かな生活環境 ◎4 恵まれた立地と自然環境が調和した暮らしやすい ◎5 気象条件に恵まれ大災害が少ない環境 ◎6 丘陵が織り成す北海道らしい牧歌的な風景 ◎7 石狩・空知に近接しているが降雪量は少ない ◎8 日本最大級のメガソーラー発電所と世界最大級の蓄電施設が町内に存在	生活環境 生活基盤	▽2 Wi-Fiの未整備と郊外のインターネット環境の遅れ ▽3 特に追分地区で顕著な空き家・空き地の増加 ▽4 道路の環境管理が特に行き届いていない ▽5 町内施設や看板に統一感がなく寂れた感覚
◎9 雇用を生む規模の大きな企業が町内に立地 ◎ 大規模ドラッグストアの進出 ◎10 昼夜間人口比率の高さという他の過疎地域にはない特殊性 ◎11 名馬が集まる日本有数の軽種馬産業 ◎12 多種多様な農業が展開（少量多品種） ◎13 有機農業と慣行農法の共存に寛容な農業文化 ◎14 ブランド品の存在（アサヒメロン、和牛など） ◎15 約75haの作付面積を誇る丘陵に咲く菜の花畑 ◎16 多数のCM撮影が行われる景観を保有 ◎17 プロゴルフツアー開催の名門コースを含むバリエーションに富んだゴルフ場の存在 ◎ 道の駅D51ステーションの賑わい ◎ 新規創業や特産品の増加	経済 産業	▽6 自己水源の恒常的不足 ▽7 商業への住民満足度の低さ ▽8 高齢の商店事業主の25%が事業継承を望んでいない現状 ▽9 新たな工業用地の敷地確保が困難 ▽10 町内農産品・特産品の対外ブランド力の弱さ ▽11 農家戸数の減少と高齢化による継承者の不足 ▽12 宿泊施設の不足 ▽13 圧倒的な集客力を持つ施設がない ▽14 民間の観光事業者が未参入 ▽15 体験型の観光コンテンツの不足 ▽16 行政施策の情報提供・PRの不足 ▽17 「安平町」という自治体名の知名度の低さ ▽18 観光資源間や近隣市町村との連携がない
◎18 地域福祉を支える住民ネットワークが確立 ◎19 過疎自治体だが地域医療・高齢者福祉事業・しょうがい者福祉事業を展開する民間法人が存在	健康 福祉	▽19 総合病院・福祉専門施設がない ▽20 地域公共交通に対する住民満足度の低さ ▽21 70歳以上の高齢者単身世帯数の割合の高さ（全世帯の約12%） ▽22 社会福祉協議会のボランティア活動者の高齢化 ▽23 地域福祉への理解者の減少

議事（２）SWOT分析一覧表について

<p>◎20 登下校時の見守りボランティア活動など、地域で子どもを育てる意識の強さ</p> <p>◎21 待機児童ゼロ（2016年）</p> <p>◎22 公私連携幼保連携型認定こども園の整備（はやきた子ども園・おいわけ子ども園）</p> <p>◎23 「子育てしやすい街ランキング（2015年）」全道2位</p> <p>◎24 18歳までの子ども医療費の無料化を実現</p> <p>◎25 少ない児童生徒数にありながら文化・スポーツ活動で全道・全国レベルの活躍が顕著</p> <p>◎ 追分高校の魅力化（選ばれる高校への進化）</p> <p>◎26 積極的な就労支援などで注目される誘致企業会と追分高等学校による連携活動</p> <p>◎27 全ての認定こども園・小中学校にコミュニティ・スクールを設置</p> <p>◎28 幼保小中高の連携体制が確立</p> <p>◎ 挑戦する文化の芽生え</p> <p>◎ 地域おこし協力隊など外部人材の流入</p> <p>◎ 復興のシンボルとしての早来学園の存在</p>	<p>子育て ・ 教育</p>	<p>▽24 合計特殊出生率の低さ（道内127位）</p> <p>▽25 子どもを対象とした全天候型施設がない</p> <p>▽26 宅地・団地内公園の児童遊具の魅力の低さ</p> <p>▽27 児童・生徒数の減少による少年団・部活動・子ども会等の活動停滞・統合問題</p> <p>▽28 PTA・子ども会育成会の担い手不足（男性参加率低下に伴う女性の負担増）</p> <p>▽29 少年団活動・部活動で利用できる子どものための交通機関がない</p> <p>▽30 全ての小学校が1学級・複式学級であり、競い合い精神の醸成が困難</p> <p>▽31 追分高等学校の存続危機</p> <p>▽32 6校中5校の学校施設が老朽化</p>
<p>◎29 まちづくり基本条例・まちづくりファンド（町民基金）の設置</p> <p>◎30 地域コミュニティ活動が健在で防災や高齢者対策など自助・共助・公助の役割分担が機能</p> <p>◎31 屋内アイスアリーナ・鉄道資料館など近隣には無い希少スポーツ施設・文化施設の存在</p> <p>◎ 民間による交流・活動機会の増加</p> <p>◎ NPO法人の増加</p>	<p>人づくり ・ コミュニティ (生涯学習)</p>	<p>▽33 新しい取組みに消極的な風土</p> <p>▽34 自治会・町内会等役員の担い手不足</p> <p>▽35 自治会・町内会等への加入率の急激な低下（H18：89%⇒H28：82%）</p> <p>▽36 地域活動への若者参加者数の減少</p> <p>▽37 合併後10年で未だに存在する旧町の意識</p> <p>▽38 多目的に利用できる体育施設がない</p> <p>▽ リーダーシップ・主体性の低さ</p>
<p>◎32 自治会長等会議の制度化により行政と住民の距離が近く住民意見の政策反映スピードが速い</p>	<p>行財政 運 営</p>	<p>▽39 約40%を占める築30年以上の公共施設に係る老朽化対策費用の増大</p> <p>▽40 合併特例の終了に伴う地方交付税の減少への対応</p> <p>▽ アンケート調査等の参加率の低さ</p>

議事（２）SWOT分析一覧表について

2. 安平町を取り巻く『機会』と『脅威』

議事（１）でまとめたものに関連するものを落とし込んでみました。

こちらは安平町固有の課題ではなく、「時代の流れ」や「外部環境の変化」など、社会全体をとりまく要因を『O（機会）』と『T（脅威）』に入れています。

こちら、次の点について皆さんのご意見をお伺いしたいと考えます。

- ① 前回からの項目は、今もそのとおりか？
- ② ここにないもので、入れるべきものがあるか？

O 機会 (Opportunity)	分野	T 脅威 (Threat)
<ul style="list-style-type: none"> ● 1 冷涼な北海道への移住希望者の増加 ● 東京一極集中是正やテレワークの発達による地方移住推進の機運 	立地 地勢	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 1 人口減少社会の到来と少子高齢化の進行 ▼ 2 若者世代の都市圏への人口流出 ▼ 3 北海道特有の寒冷地のハンディキャップ ▼ 海溝型巨大地震のリスク増大
<ul style="list-style-type: none"> ● 2 地域の自然や景観の保全に対する関心の高まり ● 3 安全・安心に対する意識の高まり ● 4 循環型社会、再生可能エネルギーへの関心の高まり ● 5 ライフスタイルの多様化 ● 6 情報化社会の進展と情報通信技術の進歩 ● 7 空き家対策特別措置法の制定 	生活環境 生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 4 自然環境破壊と地球温暖化の進行 ▼ 5 世界規模のエネルギー危機への懸念 ▼ 6 非正規雇用労働者の割合の増加 ▼ 7 サラリーマン世帯の総貧困化 ▼ 高度経済成長期に整備したインフラ・施設の老朽化
<ul style="list-style-type: none"> ● 8 政府の持続可能な農業に向けた構造改革の推進 ● 9 6次産業化・農商工連携への関心の高まり ● 10 創業支援に対する国の施策の強化 ● 11 経済のグローバル化の進展 ● 12 災害リスクを回避する企業の地方移転の動き ● 13 北海道新幹線の開業に伴う本州旅行客の増加 ● 14 外国人観光客の増加 ● 15 グリーンツーリズムへの関心の高まり ● チェーン等の地方展開の増加 	経済 産業	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 8 農地集積など農業・農村の構造変化 ▼ 9 食料自給率の低下 ▼ 10 自由貿易時代の到来（TPP問題） ▼ 11 地域経済の衰え ▼ 12 地方の雇用の受け皿と若者ニーズのミスマッチ ▼ 13 今後における労働力人口の急激な減少 ▼ 14 社会構造等の変化と雇用形態の多様化 ▼ 15 大規模店舗への消費流出 ▼ 16 団体ツアー旅行の減少
<ul style="list-style-type: none"> ● 16 元気な高齢者の増加 ● 17 医療・介護への注目の高まり ● 18 政府による日本版CCRC構想の推進 ● 19 健康志向の高まり（食、自転車、ウォーキング） ● 2次医療圏への近さ ● 国によるMaaS技術の進展等の交通空白対策の強化 	健康 福祉	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 17 社会保障費の増大 ▼ 18 道内医師の約半数が札幌圏に集中 ▼ 19 J R・民間バスの撤退問題 ▼ 20 交通弱者の増加と自家用車への依存 ▼ 21 買い物難民の増加 ▼ 医師不足による医療機関の統廃合
<ul style="list-style-type: none"> ● 20 子ども・子育て支援法の制定 ● 21 子育て支援サービスのニーズの高まり ● 22 全国学力テスト・全国体力テストへの関心の高まり ● 23 特色ある学校づくりに対する期待 ● 子育て・教育に対する関心の高さ ● 部活動のクラブ化を軸とした地域展開によるスポーツ文化振興 ● 多様な学びや経験が評価される社会へ（高校以降の入試のあり方）の変化 	子育て 教育	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 22 出生率の低下 ▼ 23 女性の継続就業を妨げる壁の存在 ▼ 24 学力成果主義による適応力・対応力の低下 ▼ 25 子どもの基礎的運動能力の低下 ▼ 26 子育てに対する不安感や負担感の増大 ▼ 公立高校の統廃合や間口減少 ▼ J R 存続問題に伴う学生の移動手段への不安

議事（２）SWOT分析一覧表について

<ul style="list-style-type: none"> ●24 新しい公共の台頭（協働・参画型のまちづくり） ●25 地域課題を解決するビジネスへの期待 ●26 女性活躍推進法の制定 ●27 共助社会づくりを推進する国の取組み ●28 生涯学習・生涯スポーツに対する関心の高まり ●29 北海道への合宿ニーズの増加（冷涼な気候と食の充実） ●30 スポーツ基本法・同計画に基づくスポーツ立国の実現に向けた取組みの強化 ● 高度情報化社会の進展による地域間の知識・人材交流の拡大 	人づくり ・ コミュニティ (生涯学習)	<ul style="list-style-type: none"> ▼27 核家族化・高齢者単身世帯の増加 ▼28 人間関係の希薄化 ▼29 無関心層の増加
<ul style="list-style-type: none"> ●31 地方分権社会の到来 ●32 地方創生の取組みに対する支援策の拡充 ●33 コンパクトシティの形成に向けた支援策の拡充 	行財政 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ▼30 公共事業に必要な国の補助金の削減 ▼31 資材高騰による公共事業の建設コストの上昇 ▼32 国家財政への不安 ▼33 人口獲得競争時代の到来 ▼34 情報漏えいと不正利用への不安